令和４年５月１日

令和３年度学校関係者評価報告書

学校法人コア学園
飯田コアカレッジ
学校評価委員会

学校法人コア学園　飯田コアカレッジ　学校評価委員会は、令和３年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を実施し、その結果を以下のとおり報告いたします。

１．令和３年度学校関係者評価委員（令和４年２月２５日現在）

企業等	新井　一夫氏	株式会社リンクス　代表取締役
	小池　秀一氏	株式会社アコーデックス　代表取締役社長
	木下　浩文氏	みなみ信州農業協同組合総務企画部人事教育課　課長
	福澤　栄二氏	飯田商工会議所　専務理事
	桜井　裕司氏	飯田市総務部 総務文書課　課長
高等学校	有馬　　乃氏	飯田女子高等学校
卒業生	上沼　　章氏	みなみ信州農業協同組合　本所金融部
事務局（学校）	牧島　　晃	飯田コアカレッジ　学校長
	遠山　千尋	飯田コアカレッジ　事務長

２．自己評価報告について

（1）教育理念・目標、（2）学校運営については、前年度とほぼ同様の結果となっていますが、IT 医療事務学科については医療関係の求人が減少しており、進路保証が困難であることから学科編成の見直しを検討していることを説明しました。また学生の意識と意欲が低く、教職員を含めた意識改革が必要であることも説明しました。（2）学校運営では 35 周年記念事業として校舎内外の整備を進め、よりよい学習環境の提供を推進したことを説明しました。

（3）教育活動については、学生の能力や意欲が多様化しているなかで、習熟度別授業などを取り入れていますが、専門職としての職員が足りておらず、継続的な課題として考えていることをお伝えしました。また職員の意識レベルが低く、学生のモチベーションに影響を与えていることも喫緊の課題であることを合わせて報告しました。

(4)学修成果については、前年度より退学率が改善しており、就職率も地元産業界、自治体等から支援をいただき 7 年連続で 100%を達成していることを報告しましたが、合わせて就職に対する学生の主体性が年々低下しているとも感じており、また教員に関しても社会人まで見据えた指導ができていないケースも散見されたことを報告しました。多種多様な課題

を持った学生が増えており、より丁寧な個別指導ができる職員の育成に力を入れていくことを説明いたしました。

(5)学生支援については、保健担当の職員が常駐していないため、十分なケアができていない点、ま教員の経験不足から支援に偏りが生じ、学生にとって不利益となる事案も発生したことを報告し、特にメンタル面に関しては指導する職員に専門的な知識習得の必要性について説明いたしました。

(6)教育環境については、新型コロナウィルス感染防止のための施策として、トイレの自動水栓や空気清浄機の設置、机・椅子・ロッカー等の抗菌・抗ウィルス塗装などを実施予定であることを報告しました。

(7)学生の受け入れ募集、(8)財務、(9）法令等の順守、(10)社会貢献・地域貢献については、高校や地元の高等教育機関から厚い信頼をいただき、3 年連続で定員を上回る志願者を得ることができているが、コロナ収束と少子化の影響で先行きは厳しいとの現状認識をお伝えしました。

全体的には昨年度と同等の評価となりましたが、評価が下がった項目、改善すべき項目などを確認、専門分野における人材育成が低い評価となりました。学生増に対して教員負担が拡大し、少人数制のきめ細かな指導ができなかったことが要因と考えており、次年度はカリキュラム自体を習熟度別にして、演習科目は少人数の授業展開を計画していることを説明しご理解頂きました。

財政面では、学生数の増加により次年度も黒字で推移できると見込んでいますが、少子化が進行する中で、職員一丸となって学生数維持に努めることをお伝えし、法令順守に努め健全な学校運営を行うことや次年度以降も引き続き、魅力ある学校づくりに取り組むことを申し合わせて閉会となりました。

３． その他意見交換

委員の中から、卒業生の離職率が高いのではないかとの指摘があり、個人の問題よりも環境の問題も多いと思うので、就職時の人間関係などの重要性についても教えていくことが必要との指摘を受けました。また離職するなら若いうちの方がよいという考え方、目的があっての転職はありという考え方もあり、働き方も多様化するなかで、しっかり指導をしてもらいたいとの要望を頂きました。

教育理念を含めて教職員のスキルアップが課題と捉えている点については、経営と理念をマッチングさせるところが学校経営の難しさとは認識しているので、地道に取り組んでもらいたいとのご意見を頂きました。

探求学習を通して、この地域ならではの取り組みができれば、素晴らしいとのご意見がありましたので、今後も一層魅力ある学校づくりを目指していくことを申し合わせました。

以上